

「在宅医療」ご存知ですか？

言葉の通り、家で医療を受けることです。つまり入院や通院をする代わりに、自宅で診察・治療を受ける訳です。継続した治療が必要で、自力での通院が困難な方が適応です。家族との時間や、自宅のリラックスできる環境は何物にも代えがたい価値があります。

最近では小林麻央さんが病院から在宅医療に切り替えた時の「やはり我が家は最高の場所です」という言葉が印象的でした。在宅医療で大切なことは「楽なように、やりたいように、後悔しないように（永井康徳著「在宅医療を始めよう！」より）」です。

どんな病状にあっても、治療は良い人生を送るための手段でしかありません。がん末期などの積極的な治療が望めないときに、入院から在宅医療へ切り替えるのも良いかもしれません。

また、慢性疾患や認知症といった非がん疾患での在宅医療もこれからの高齢化社会にとって大きなテーマです。一人暮らしや体力低下で通院困難な方への支援の目標が「時々入院、ほぼ在宅」です。肺炎や骨折の際は入院し、また在宅に戻るイメージです。

一方で本人や家族にとっての負担と心配も問題であり、さまざまな職種の人がお手伝いして無理なく過ごせるようにします。地域の医療・介護・福祉・その他アンオフィシャルサービスまでもが参加して、地域全体が一つの病院のように機能するよう「地域包括ケアシステム」として官民一体となってこの問題に取り組んでいます。

今後地域ごとの進歩が求められています。

平成29年9月

太田 俊輔